



齋清志町長による町政運営が再スタートしました。
4年ぶり3期目の再選となった齋町長より、町民の皆さまへメッセージをお伝えします。

このたび、4年ぶりに再び町政運営という重責を担わせていただくこととなりました。齋清志でございます。町長就任にあたり、ご挨拶を申し上げます。

はじめに

豊かな自然の恵みに囲まれ仙南の中心に位置する大河原町は、交通の要衝であり行政・医療・商業などの生活拠点として、大きな役割を果たしてまいりました。しかし、近年においてはその中心性・拠点性・利便性が十分に活かされていないのではないだろうか、という指摘がなされております。

仙南全体の人口は、もつとも的確とされる人口推計値(国立社会保障・人口問題研究所)よりも早い速度で減少しております。そのなか、高齢化と少子化が同時に進行し、将来に向けた様々な課題に直面しております。もはや、**我がまち意識**だけの解決策は困難であり、むしろ自治体間の垣根を下げて広域的な視点で将来を展望し、連

携強化の糸口を探っていくべきと考えております。

この考え方のもと、本町の持つ様々な特徴を再認識し、経営資源である**人・モノ・カネ・情報**が集まる吸引力を高めながら、町全体の**ブランド化**を図ってまいります。また、地域イメージの統一やご当地ブランドの創出を進め、かたちの見える施策の実現を目指します。合わせて、5年先・10年先を見据えた施策の優先順位を見極めながら、長期的な財政計画を建て責任ある町政経営に努めていく所存でございます。

さい清志の政策ビジョン

私は、これからのまちづくりにおいて、次のような政策ビジョンを掲げております。

①命を守る 暮らしを守る
災害に強い安全安心なまちづくりの推進については、優先順位の高い水害への対応力を強化したいと考えております。多額の予算

と長い年月を要しますが、鷺沼排水区雨水整備事業等への取り組みを確かな進捗に戻してまいります。

健康福祉づくりの実現のなかでは、**みやぎ県南中核病院**の高まった医療機能を存分に活かすために、公立刈田総合病院や民間病院との役割分担を明確にし、さらなる医療機能の分化と集約化や連携強化に努めてまいります。県の策定となる『地域医療構想』との整合性を図りながら、二次医療圏内での中核病院の果たす役割を一層高めることで、命を守り、暮らしを守る取り組みの充実を目指します。

次に、介護に関する課題でございますが、本町の**介護認定率**の低さが何に起因するのかについては、出来るだけ早く調査のうえ、説明責任を果たしたいと考えております。また、在宅医療や介護の将来を見据えれば、**施設介護**ばかりでなく**24時間訪問介護**への対応が大きな課題となり、民間による在宅介護の体制整備への支援が重要であると思われま

さらに、特定医療費(指定難病)への助成や、胃がん検診から始めながら、**がん検診の無料化**と予防接種の補助拡大を実現いたします。

②子ども子育て支援と教育の充実

目玉施策にこだわることなく、成長に合わせたきめ細やかな支援を検討してまいります。民間やNPOの力も借りながら、待機児童解消や小1の壁解消と学童保育への受け皿づくりを進め、協働の実践により**子ども食堂**の開設についても実現を目指す考えであります。さらに、不登校やいじめの未然防止のためのこころの教育についても継続し、さらなる充実を図ります。

③経済の活性化と地元企業支援 若者の定住化と人口減少対策

地域経済の活性化や産業振興、さらには企業誘致の問題は経済的な取り組みが求められますが、本町の現状にとっては**雇用の確保**が極めて大きな課題と認識しております。起業や新規事

業を推奨し、地元企業の雇用に対する支援を強化したいと考えております。取り分け、子育て支援にもつながる女性の雇用や、生きがいづくりとなる高齢者の雇用については、町独自の支援策を検討してまいります。

また、地場産業の活性化につながる直営型の**ふるさと納税**の拡大や、質の高い水の供給による食の産業振興にも力を注いでまいります。さらに、民間企業と連携した**空き家バンク**の活用や、2世代・3世代を対象とした住宅リフォーム補助制度の創設により、若者の人口減少対策につなげてまいります。

④桜の保全と白石川河川敷の活用

国の創生予算や復興関連予算を活用し、また県の支援もいただきながら、町民の皆さまの誇りである「**一目千本桜**」を守ってまいります。さらに、本町の観光資源の一つとしても、スポーツや健康づくりの一貫としても、白石川河川敷の活用は

極めて有効な切り口だと考えております。民間や団体との協働や具体的な支援策を実施しながら、大胆な予算措置の検討を進めてまいります。

⑤農業を守り育てる

私は農家に生まれ、父母の朝から晩まで休みなく働く姿を見て育ちました。農業の多面的な機能を大切に、人との絆を育んできた**農業文化**をしっかりと守ってまいります。また、拡大し続ける**イノシシ被害**を放置することなく予算措置の増額を検討するほか、農家の新規事業や耕作放棄地の解消についても、しっかりと支援してまいります。

⑥障がい者の就業と就業定着への支援

働くことの先にある夢や生きがいを大切に考え、それぞれの状況に合った就業と就業定着の支援を行います。また、居場所から就業の場へ、そして自立の場へとつながる継続的な支援が求められる現状を踏まえ、



さい清志
1953年生まれ(63歳)
大河原生まれ、大河原育ち
白石高等学校・東京薬科大卒
上谷3区在住
好きな言葉： 真実一路

町長選挙(10月16日㊤)
当日の有権者数は、19,638名。投票者総数は、11,282名で投票率57.45%でした。